



11月3日、本番。⑧コンクール全部門終了後、3年生全員で「ギフト」を熱唱。⑨金賞受賞学級の中からグランプリを獲得した3年1組。⑩「時を経てもまたこのメンバーで歌いたい」そんな固い絆が生まれた。



⑤連日の練習を陰で支えた保護者、夜間練習では夕食を振る舞った。⑥先生がたの指導で課題を一つひとつ解決。⑦本番が近づき、表情もより真剣に。全員の心がまとまっていく。



夏休みまで個人練習、9月から本格的な練習が始まった。
①3年生は1学級24人の3クラス。クラスがそれぞれ3~4のパートに分かれた。②練習期間中、実行委員が4回発行した「合唱新聞」。③男声は「やわらかく優しい声」を出すことに大苦戦。④朝と放課後の練習はもちろん、休み時間や登下校時に歌声が響いた。



Photo story 受け継がれる伝統
【金田中学校合唱コンクール】

平成10年にはじまって以来、年を追うごとに熱意とレベルが高まり、今や金田中学校を代表する行事となつた「合唱コンクール」。金田中の歌声を手本に、合唱の練習を重ねる高校もあるほど、音楽関係者や近隣の学校からも、その完成度の高さが評価されています。

そんな誇りある学校行事に向かって、全力で取り組む3年生の姿を追いました。

未来へ響け、心と絆の合唱

ハーモニー



伝統と感動を受け継いで

7月初旬に曲を選び、夏休み中は一人ひとりがCDで曲覚え、2学期が始まると、自主練習の歌声が連日校内に響き渡ります。そこまで生徒たちを突き動かすもの、それは何なのでしょうか。昨年12月に開催された、福智町わたらしの主張大会で、金田中の合唱コンクールのすばらしさを訴えた井塚花純さんは「1年前、3年生の合唱を聞いて、これが本当に中学生の合唱なのか」と圧倒されました。歌も表情もすべてが完璧。多くの生徒が涙を流しました」と感動を振り返ります。

コンクールでは教育関係者など6人を審査員に招き、声のバランス、ハーモニー、表現力、感動、態度の5項目

がいがあり、クラスの結束力が試される」と、NHK音楽コンクール高校の部の課題曲「青春譜」に挑んだ3年3組。朝、放課後と猛特訓を重ねますが、なかなか思うようにいかず、クラスの雰囲気が悪化。10月に入つてついに練習を中断します。「正直あきらめかけましたが、その後1週間考えてみた時、このままだと後悔すると思い直し、みんなに気持ちをぶつけました」と3組ブロック長の高田涼介くん。高田くんの熱い思いがクラスメートの胸を打ち、3組は一体感を取り戻して練習を再開します。合唱委員の亀田竜児くんは「あれからクラスの絆はより深まりました。歌は一瞬。だけどそれによって得たつながりや感動は、永遠にみんなの心に残るはずです」と、改めて仲間を見つめました。

生徒は自分たちの合唱に妥協点を作らず、常に上を目指して練習してきました。それが自信につながり、自分たちの誇りとなっているので、「歌われる」とではなく、歌を自ら生き生きと表現することができるのだと思います。



担当教諭
河野康世先生

練習の日々をとおして大きく成長した生徒たちは、合唱コンクール当日の

未来へつなぐ誇り

どのクラスにもドラマがあり、困難を一つひとつ乗り越えながら団結してきました。合唱は、一人では決して作り上げることはできません。だからこそ、一人では得ることのできない感動を味わうことができるので改めて感じました。



実行委員長
荒川奈都音さん

11月3日、今までのすべての思いを込めた歌声を披露し、来場者300人の心をふるわせました。結果、3年生は見事「全クラス金賞」の栄光に輝きます。「全員の心が一つにまとまつたのを実感し、歌いながら涙がこみ上げてきました。みんなで最高の合唱を作り上げたことを誇りに思います」と3年1組ブロック長の伏見亮くん。本気で取り組んできたからこそ、得たものも大きいようです。

「一生懸命打ち込むこと。対して否定的になりがちな年です。ですが、金田中には正しいことを、良い」と判断し、実行していく校風が培われています。それは、先輩の努力する姿に眞の意味での「かっこよさ」を見いだし、正しい判断基準を身につけてきたからに違いありません。1週間後「感動した」先輩の歌声を目指したい」といった寄せ書きが1、2年生から3年生の元に届けられました。金田中の伝統ともいえる合唱は今年も受け継がれ、そのことを誇りに思える土壤が、また新たな芽をはぐくみ、確実にその心と絆を未来へつなげました。

